The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 地域社会で成長するピアエデュケーター : メキシコ合衆国ベラクルス州における国際協力から |
| Author(s) | 江角, 伸吾 |
| Citation | 大阪大学, 2017, 博士論文 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/61439 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

様式３

論　文　内　容　の　要　旨

| 氏　名　（　江角　伸吾　） | |
|---|---|
| 論文題名 | 地域社会で成長するピアエデュケーター<br>－メキシコ合衆国ベラクルス州における国際協力から－ |

論文内容の要旨

本研究では思春期ピアエデュケーションが実践された地域においてピアエデュケーターがどのように成長したかを考察することを目的とし、1）メキシコ合衆国のベラクルス州でのピアエデュケーター養成講座における受講者が感じた学びについて明らかにする、2）ピアエデュケーターが活動する中での成長や変化を分析する、3）思春期ピアエデュケーション活動を実践することにより、地域社会とピアエデュケーターとの関連性を考察することの3つのことに取り組んだ。

第1章では、思春期ピアエデュケーションの歴史的経緯、思春期ピアエデュケーションの定義、実践を通してのピアエデュケーターへの影響、実践を通してのターゲット集団への影響思春期ピアエデュケーションの理論的背景、思春期以外でのピアを用いた研究の動向という視点で文献を整理した。

第2章では、メキシコ合衆国における思春期リプロダクティブヘルスの現状をとりあげ、若年性妊娠とその背景、HIV/AIDSと性感染症、薬物中毒問題、パートナー間の暴力を概観した。次に、ベラクルス州における思春期リプロダクティブヘルスの現状を概観した。3番目にベラクルス州における思春期ピアエデュケーションプロジェクトの経緯として、本研究の対象となった2009年から2012年にかけて草の根技術協力事業にて実施した「保健医療従事者と思春期ピアリーダーによる健康なライフスタイルづくりシステム化支援事業（以下支援事業とする）」を取り上げて説明した。

第4章では、支援事業で実施したピアエデュケーター養成講座を取り上げた。ピアエデュケーター養成講座を受講した若者がどのような成長をしたのかを明らかにすることを目的し、質問紙調査はピアエデュケーター養成講座の直前と直後のプレ・ポストテストおよびフォーカスグループインタビュー（FGI）を実施した。プレ・ポストテストでは、一般性自己効力感尺度、自尊感情尺度、社会的スキルに関する項目を用いた。27名を対象に行った結果、すべての尺度と項目において平均点の上昇は認めたが、対応のあるt検定では有意な差は見られなかった。FGIで得られた結果はKJ法にて分析を行った。4名を対象に行ったFGIの結果から、受講生たちにとってピアエデュケーター養成講座は、自分自身を深く見られるようになったという「自己の内面的成長」、養成講座で初めて知り合った人とグループワークの中から考え方の共有をする「他者とのかかわり」、コミュニケーション能力の向上などを示す「知識の向上」といった学びがあったことが明らかとなった。自己効力感については、ミニピアエデュケーションの成功体験は自己効力感を高めたかもしれないが、「スキルの練習する時間の少なさ」という時間を指摘する声があることから、社会的スキルの項目と関係がある学んだ知識を使いこなすという自信にはつながらなかった可能性があると考察した。

第5章では、養成されたピアエデュケーター達が思春期ピアエデュケーション活動を実践することによって、健康に関する意識や知識が地域住民に浸透しているのかどうか明らかにすることを目的とし、思春期ピアエデュケーション活動前後での聞き取り調査を実施した。分析はMcNemar検定を行い、ピアエデュケーション活動を知っている群と知らない群に分けて分析を行った。

健康への関心の変化では、ピアエデュケーション活動を知っている群では、すべての項目において活動後に意識が高くなっていた。特に、ピアエデュケーション活動を知っている男性に変化が見られ、性感染症（p=0.02）、薬物依存（p=0.04）、アルコール中毒（p=0.006）に対する関心が有意に高くなったことから、地域住民が持つ健康への関心はもともと健康について関心の高かった女性よりも男性に変化を起こしたと考えられた。避妊に関する知識については、ピアエデュケーション活動を知っている群では、4つの項目すべてについて有意に正答率が有意に上昇していた。特に女性については、4つすべてについて有意に正答率が上昇していた。性感染症に関する知識では、ピアエデュケーション活動を知らない群は1つを除いて有意に正答率が低かった。

これらの結果から思春期ピアエデュケーション活動は地域住民の意識、知識、行動に影響を及ぼしてい

ると考察した。

第6章では、思春期ピアエデュケーション活動を実践することにより、ピアエデュケーターとして活動した人がどのように変化や成長をした変化と成長を明らかにし、地域社会とピアエデュケーターとの関連性を考察することを目的とした。12名のピアエデュケーターから半構成的面接法を用いて得られた結果はKJ法を用いて分析をした。その結果、抽出されたカテゴリーの順序性として、「思春期ピアエデュケーション活動の実践」として、「同世代の集団に対する思春期ピアエデュケーション」、「個人に対する思春期ピアエデュケーション」、「若者の意見を大人世代に伝える情報発信限としての活動」が行われていた。

「ピアエデュケーターの変化や成長」として、「ピアエデュケーターは様々な知識を得たこと」、により、「自分自身の弱点を知ること」につながった。その結果、「物の見方や判断の仕方が変化しこと」で、「誘惑に負けずに、夢をかなえるためにビジョンを持つようになったこと」という順序性を持っていた。そして、自分を大切にすることという自尊感情の高まりとまとめられるため、大カテゴリーとして「自尊感情の高揚」と名付けた。ピアエデュケーターから他者へ支援することの自信が語られていることから「多様な人を支援することへの自信」と名付けた。ピアエデュケーターから話の聴き方、コミュニケーションする時のピアエデュケーターとしての姿勢・考え方が表現されていたことから、「コミュニケーションの仕方が変わったこと」とし、ピアエデュケーターとして活動する中でコミュニケーションをした相手との関係性や距離感について感じた変化が語られていることから、「他者との距離感がかわったこと」とした。これらは関係性として、同年代というだけでなく、異性や同僚などの多様な人とのコミュニケーションを表していたため、大カテゴリーとして「多様な人との双方向のコミュニケーションができるようになったこと」と名付けた。家族に対して「自分が経験したことや自分が得た知識を共有するようになったこと」がピアエデュケーターから語られただけでなく、ピアエデュケーターとしての活動をする中で、「人生設計を家族と共有するようになったこと」いう変化が見られた。また、これらの変化に対し、「家族が成長を認めてもらえたこと」がピアエデュケーターから表現されていたことから大カテゴリーを「家族との関係が密になったこと」と名付けた。

これらの結果から、ピアエデュケーターと最も関係性の深いコミュニティーである家族との関係性について考察することができたが、地域社会全の変化ということは明らかとならなかった。若者の意見を大人世代に伝える情報発信限としての活動を実際には行っていたが、ピアエデュケーター達の実感として変化にはつながっていなかったと考察した。

第7章では、「ピアエデュケーターの成長」、「ピアエデュケーターと地域の関連」、「国を超えることで発展する思春期ピアエデュケーション」という3つの柱を立てて考察した。

1つ目の考察の柱である「ピアエデュケーターの成長」では第4章および第6章の結果を中心に考察し、第6章におけるピアエデュケーターの語りから明らかになったのは、「多様な人を支援することへの自信」であった。つまり、ピアエデュケーター養成講座の中で自己効力感が高まっていなくても、実践の中で高まるということが重要であると考えられる。構成的グループ・エンカウンターの1つである人生設計を行うライフラインは第6章の結果からも自尊感情に大きく影響していると考えられた。ただ、ピアエデュケーターとして、思春期の若者が抱える問題に関する知識や人との話し方を知る中で、他者に対して行うだけでなく、他者に対して行うことによる自己の内省にもなっているため、具体的な将来の夢を描き出すことにつながっていた。その夢をかなえるために、自分を大切にすることを自らが選び取っていくことになり、自分がやりたいことのために努力することができるのが自尊感情だと考えた。

2つ目の柱である「ピアエデュケーターと地域の関連」は第5章および第6章の結果を中心に考察した。第6章ではどのように健康に関する意識や知識が地域住民に広がったのかを考察することができた。そのため、健康に関する意識や知識が個人からどのように広がっていくかを考察していった。しかし、コミュニティー全体の変化というものまでは第6章ではピアエデュケーターからは語られなかったため、この点については今後の課題である。

個人から地域へと健康についての意識や知識が同世代の仲間だけでなく家族へ広がっていくプロセスは、地域づくりとして考えることができ、ヘルス・プロモーションの視点からも考察をした。本研究において得られた個人の意識・知識の変化は、メキシコ合衆国ベラクルス州において、時間を経ることにより、仲間の意識・知識の変化、家族の意識・知識の変化へと広がっていったことが明らかとなった。すなわち、個人に対して働きかけた健康改善の取り組みが、人と人とのコミュニケーションを介して、友人や家族の健康改善につながった。今後もこのような活動が継続すれば、ひいては地域全体の改善にも寄与すること

が期待できるであろう。換言すれば、地域の健康づくりをめざすヘルス・プロモーションとしての役割の一部を、思春期ピアエデュケーションが担っていたと考えることも可能である。ピアエデュケーションが地域社会に及ぼす影響の一端が明らかになることで、従来からピアエデュケーターの養成講座などに参画していた行政機関の環境整備が、一層強化されることを期待したい。そうすることで地域活動がより強化されることは間違いない。

3つ目の柱である「国を超えることで発展する思春期ピアエデュケーション」では、国際協力という立場でどちらかが「教える」側と「教えられる」側という固定した関係を超えて、対話を通じた学び合いの関係性になることが重要性を説いた。本研究で扱った支援事業においても技術を提供する側という立場になるのではなく、互いに「思春期の若者のために」という思いで、思春期ピアエデュケーションというものをより良くしていくことを念頭に実施していくことで互いの理解が進んでいったのかもしれない。そして、この対話を通じた学び合いは、国際協力という視点だけでなく、思春期ピアエデュケーションが目指す理念と合致している。

メキシコ合衆国は中南米の中では経済も発展しており、他国へと技術を提供していける側となってきている。そのため、メキシコ合衆国の形をさらに中南米の形として作り上げていくことが国際協力の視点として望ましいのではないだろうか。そして、技術提供をした日本もメキシコ合衆国を見習い、さらに日本の思春期ピアエデュケーションを発展させていくことが望まれている。

様式7

# 論文審査の結果の要旨及び担当者

| 氏　名　（　江角　伸吾　） | | |
|---|---|---|
| 論文審査担当者 | （職） | 氏　名 |
| | 主 査　教　授 | 中村　安秀 |
| | 副 査　教　授 | 澤村　信英 |
| | 副 査　教　授 | 千葉　泉 |

## 論文審査の結果の要旨

本研究は、思春期ピアエデュケーションに焦点を当て、メキシコ合衆国ベラクルス州でのピアエデュケーター養成講座における受講者が感じた学びについて明らかにし、活動を通したピアエデュケーターの成長と変化を分析し、地域社会とピアエデュケーターとの関連性を考察することを目的とした。

まず、思春期ピアエデュケーションの歴史的経緯と理論的背景、思春期以外でのピアを用いた研究の動向に関して先行文献をもとに批判的に分析した。続いて、若年妊娠、HIV/AIDS、薬物中毒などの課題を抱えるメキシコ合衆国における思春期リプロダクティブヘルスの現状をとりあげ、ベラクルス州における思春期ピアエデュケーション・プロジェクトの経緯を概観した。

ピアエデュケーター養成講座を受講した若者を対象に質問紙調査とフォーカスグループ・インタビュー（FGI）を実施した。27名を対象に実施したプレ・ポストテストでは、一般性自己効力感尺度、自尊感情尺度、社会的スキルに関するすべての尺度と項目において平均点の上昇は認めたが、有意な差は見られなかった。続いて、思春期ピアエデュケーション活動がコミュニティーに与えた影響の浸透度を明らかにする目的とし、地域住民に対する思春期ピアエデュケーション活動前後での聞き取り調査を実施した。ピアエデュケーション活動を知っている群では、すべての項目において活動後に意識が高くなっていた。ピアエデュケーターの長期的な変化や成長を明らかにするため、ピアエデュケーター養成講座の４年後に、12名のピアエデュケーターに対して半構成的面接法を実施した。ピアエデュケーターとして知識を得るだけでなく、「自分自身の弱点を知ること」により、「物の見方や判断の仕方が変化し」、自分の夢をかなえるためにビジョンを持てるようになったという順序性を持つ語りがみられた。

考察では、ピアエデュケーターとしての成長が多様な人を支援することへの自信につながり、人生設計を行うライフラインは自尊感情の高揚に大きく影響していることが議論された。ピアエデュケーターが活動することにより、健康についての意識や知識が同世代の仲間だけでなく家族へ広がっていく、個人から地域へというプロセスが明示された。このことは、思春期ピアエデュケーションがヘルス・プロモーションへとつながる地域づくりの重要な構成要素であることを示唆している。また、国際協力の一環として開始されたメキシコ合衆国ベラクルス州におけるピアエデュケーター養成講座が、「教える」側と「教えられる」側という固定した関係を超えて、若者同士の対話を通じた国境を越えた学び合いの関係性を構築していた。

本研究は、メキシコのピアエデュケーターの成長と変化について時間をかけて丹念に追跡することにより、若者の自己効力感や自尊感情が高まるだけでなく、健康についての意識や知識が地域全体に広がっていく様相を明らかにした点で、画期的な研究となった。ヘルス・プロモーションや思春期学という視点から高く評価されるとともに、日本とメキシコ合衆国の若者同士の学びから発展した学問成果という点で「国際協力学」の地平に新しい学術的な成果を提起した貴重な研究となった。